

授業科目名	教職実践演習（幼・小）(2100410)		
時間割名	教職実践演習（幼・小）(44117)		
時間割担当	森一弘		
実施期	後期	単位数	2 必修
曜日・時限	木・4		

授業の目標・概要

この授業では、教師としての使命感や責任感・教育的愛情、教師としての社会性や対人関係能力 子ども理解や子どもたちの関係づくりの方法、教科等の指導力をテーマとする。授業の到達目標は教師としての必要な資質能力について、自己評価しつつ、養成段階におけるその最終的な形成を目指すことである。

学習の到達目標

受講生は、履修カルテに基づいてこれまでの学修を振り返りつつ、教職経験者による上記～のテーマに関する講義を受けながら、教師としての資質能力の自己評価を行う（下記第1～4回）。この事例の検討、教育現場に基づいたロールプレイング、それらをふまえたグループ討議、さらには指導計画作成と模擬授業の活動に取り組む（第5～11回）。以上の修得事項の確認と学習の後、学校園における見学・調査を行い（第12～14回）、その振り返りと演習全体の学習のまとめを通して、教師としての資質能力の確認を行う（第15回）。

授業方法・形式

演習形式

授業計画

- 第1回 演習のオリエンテーション
これまでの履修カルテに基づきつつ、担当教員との対話の中で学修を振り返る。
- 第2回 教師としての使命感等及び教師としての社会性
上記教員による、教師としての使命感や責任感・教育的愛情、教師としての社会性や対人関係能力についての講義を聴講し、グループディスカッションを行う。
- 第3回 子ども理解の方法等、及び教科等の指導力
上記教員による、子ども理解や子どもたちの関係づくりの方法、教科等の指導力についての講義を聴講し、グループディスカッションを行う。
- 第4回 これまでの学修の振り返りと上記講義をふまえた教師としての資質能力の自己評価
1～3回の学修をふまえて教師としての資質能力の自己評価を行い、自身としてより修得が必要な事項を見極める。
- 第5回 教師としての使命感や責任感・教育的愛情
このテーマに関わった教育事例について、個人でさらにはグループで検討しながら討議しつつ、教師としてのあり方を確認する。
- 第6回 教師としての社会性や対人関係能力
このテーマに関わって、子ども、保護者、同僚教師などとの対人関係場面についての事例を検討しあわせてそうした場面に即したロールプレイングを行いながら、教師として求められる社会性を確認する。
- 第7回 子ども理解の方法
このテーマに関わって、子ども理解についての深い解釈が求められる場面についての事例を検討しあわせてそうした場面に即したロールプレイングを行いながら、子ども理解の方法を確認する。
- 第8回 子どもたちの関係づくりの方法
このテーマに関わって、学級等の場面で子どもたちを集団としてまとめていくことについての実践事例を個人でさらにはグループで検討しながら討議しつつ、子どもたちの関係づくりを促していく教師のあり方について確認する。
- 第9回 教科等の指導力（1）
上記担当教員の指導のもと、10名程度のグループごとに各教員によって課題として示された学校園における授業等の指導・教育等の場面について、計画を作成する。
- 第10回 教科等の指導力（2）
上記指導・教育計画に基づいて、上記担当教員の指導のもと、教師役と子ども役に分かれた模擬的な指導・教育を行いつつ、その結果をグループ討議で検討する。

成績評価の基準

【授業計画の続き】

- 第11回 教科等の指導力（3）
上記指導・教育計画に基づいた、模擬的な指導・教育とグループ討議の続きを行った上で、上記担当教員の指導のもと、教師としての指導力を確認する。
- 第12回 幼稚園・小学校における見学・調査
上記担当教員の指導のもと、10名程度のグループごとに各学校園において見学・調査を行う。
- 第13回 その際、上記第4回で明確化された自身としてより修得が必要な事項、及び第5～11回で確認
- 第14回 された内容を観点としつつ、学校園の様々な教育活動を参観する。あわせて、現職教員による講話を聴講しつつ質疑を行う。
- 第15回 振り返りとまとめ
上記見学調査の振り返りと演習全体の学習のまとめを通して、自身の教師としての資質能力を再度自己評価し、今後取り組むべき残された課題を明確化する。

【成績評価の基準】

第1～11回の授業後に提出されるミニ・レポート(30%)、第12～14回の実習経験の振り返りレポート(30%)、及び授業全体の終了後に提出されるまとめのレポート(40%)を総合的に検討して、教員として必要な資質能力の形成につき評価する。

授業時間外の課題

授業時間内に伝える。

メッセージ

授業時間内に伝える。

教材・教科書

幼稚園教育要領』『小学校学習指導要領』

参考書

子どもの育ちと学びをつなぐ - 幼小連携のあり方と接続カリキュラムの作成 -
その他、適宜資料を配付する